

2026年度
入学試験問題

国語

2月1日 午前

受験番号	氏名

中村中学校

問題は次のページからです。

一

次の(1)～(10)の――線のカタカナを漢字に直して答えなさい。

- (1) 調査結果から原因をスイリする。
- (2) あの人はシンケイ質な性格だ。
- (3) 午後十時にシュウシンする。
- (4) その病気はイデンする。
- (5) ブナンに演技をこなす。
- (6) 事実をゴニンして報道する。
- (7) 気球から見る景色はアツカンである。
- (8) 夢からサめる。
- (9) この川はミナモトを南アルプスに発する。
- (10) 親の言いつけにソムく。

二 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。)

* 字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

シロアリは木材を食べます。ところが実は、木材のセル
ロースを分解できる酵素こうそを持つ生物はほとんどいません。
例外的にカタツムリは持っています。シロアリは持っ
ていない。

なぜシロアリは木材を食べることができるのか。それ
は胃の中にセルロースを分解できるアメーバaを持っ
ています。これがいるから、木材を消化できる。それで人間
bに迷惑めいわくが
る。

おもしろ面白い実験があります。このアメーバはシロアリより
も熱に弱いことがわかっていて、温度を上げていくと、

A だけが死んで、 B は生きているとい
う状態になる。ところが、そうになると食べた木材を消化

10

5

できなくなるので、結局すぐに C も死んでしま
うのです。

こうなると、シロアリとアメーバは別の生きものと言
えるのでしょうか。
と考えるのが自然でし
う。

体内に別のものを持っているのは珍しいことでも何で
もありません。人間のお腹なかの中には、六〇兆とも一〇〇
兆ともいわれる数の細菌さいきんがいます。昔、顕微鏡けんびきようを作った
オランダのレーウエンフックという学者は、自分の歯の
間をそれで見て仰I天てんしたそうです。あまりにおびたし
い数の生きものが動き回っていたからです。

駅のエスカレーターのベルトには「除菌」と書かれて
います。でも、それに乗っている私たちの体内にはほとん
でもない数の菌が住み着いている。すでに菌と共生して
いるのです。

だんだん話がつながってきました。

25

20

15

こういう状態——共生といつてもいいし、一心同体とか運命共同体といつても構いません——が、自然の本来の姿である。そう考えると、個性を持って、確固とした「自分」を確立して、独立して生きる、などといった考え方が、実はまったく現実味の無いものだと考えられるのではないでしょうか。生物の本質から離れているのは明らかです。

30

かつてアームストロング船長が月に行きました。月面は真空なのに、活動できたのは宇宙服を着ていたからです。では、その宇宙服とアームストロング船長の間には何かあったか。地球の空気です。それがなければ船長は即死です。

35

①これはアメーバとシロアリの関係と同じことです。

つまり、地球の環境と私たちの関係はそういうものなのです。

40

「環境が大事だ」ということに異を唱える人はいないで

しよう。でも、どれだけの人が、環境と私たちは一心同体、同じものなのだという点に思い至っているか。本気でそう思うことができているか。

45

どこかで「自分は自分」「人間は人間」「環境は外にあるもの」と思っていないでしょうか。そういう人が増えたのは、ルネサンス以降の「個人」中心の考え方が幅をきかせてきたからです。「自分」を周囲から独立した存在として立てて、関係を切っていく。周りは全部異物ですから、つまるところはマイナスです。臨死体験と逆なわけです。

50

仏教をひいきするわけではありませんが、こうした点についてはより自然な考え方をしています。さまざまなものとのつながりを重要視しているからこそ、「縁」という発想が出てくる。

55

※
これまで私は、よくブータンに行った時の話を紹介してきました。『死の壁』(新潮新書)にも書きました。食堂

60

で、私の飲み物にハエが入ってきた。^③ 現地の人はそれをつまんで、助け出してやったあとに、こちらに向かつて、

「お前のじいさんだったかもしれないからな」と笑った。

ブータンには、お互い^{たが}がつながりあっているという教えが生きているのです。

もちろん、本当にハエが私のじいさんのはずがありません。そういうことをあまり大真面目に本気で信じ込む^こと、それはそれで弊害^{へいがい}があるかもしれません。

でも、そういう考え方を持っていることには意味があるのです。

^④ 変な社会を我々はつくつてきてしまった。そう感じる
ことが増えました。

本来、自然と共生できる文化、「個人」なんてなくてもいい社会を私たちは持っていたはずでした。それが、どんどんおかしい方向に進んでしまいました。

かつては言わなくてもわかっていたことが、今では言

75

つても伝わらないようになった。

学生を田んぼに連れて行った際に、

「あの田んぼはお前だろう」

と私は言います。

すると、相手はぼかんとしています。何を言っているのだ、このじいさんは。

でも、田んぼは私たち自身だ、という考えはおかしなものではありません。田んぼから米ができる。その米を体内に入れて、体をつくっていく。米は体の一部になる。その米を作っている田んぼの土や水、そこに降り注いでいる日光も全部、《X》になっていくわけです。

もちろん海でも同じことです。《Y》を食べるということは、《Z》を体内に取り入れていく、ということでしょう。

でも、こういうことを子どもに教える大人があまりいません。「あんたはあんた。田んぼは田んぼ。海は海」と

90

70

65

85

80

しか教えないでしょう。

アイヌは「熊送り」という儀式ぎしきをやります。自分たちが捕獲ほかくして、食べたり毛皮を利用したりする熊を神様の化身けしんと考えて、熊の頭蓋骨ずがいこつを掲かげて、再び神の国へと送る儀式です。こういうものを、今の人たちは「原始的だ」と思うことでしょう。

でも、そう思う人とアイヌとで、どちらがまともなのでしょうか。⑤生物の本質とらを捉えているのはアイヌのほうではないでしょうか。

（養老孟司『「自分」の壁』新潮社）

※ブータン……ブータン王国。南アジアにあるチベット仏教を国教とする国。

問一 〓 線 a、b には日本語として不自然なところ

があります。前後の言葉のつながりに合うように、それぞれ正しく直して答えなさい。

問二

A

 $\sim$

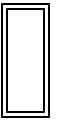
C

 には、「シロアリ」か「アメーバ」

のいずれかが入ります。組み合わせとして正しいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、A	アメーバ	B	シロアリ	C	アメーバ
イ、A	シロアリ	B	アメーバ	C	シロアリ
ウ、A	アメーバ	B	シロアリ	C	シロアリ
エ、A	シロアリ	B	アメーバ	C	アメーバ

問三



に入る言葉を本文中のこれより後の部分から探し、五字でぬき出して答えなさい。

問五

—— 線①とありますが、「これ」が指す内容を本文中の言葉を用いて三十五字以内で答えなさい。

問四

~~~~~ 線Ⅰ、Ⅱの言葉の意味として正しいものを、

次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

問六

—— 線②とありますが、「そういうもの」とは何

Ⅰ「仰天」

ア、おどろくこと

イ、ひらめくこと

ウ、腹を立てること

エ、失神すること

ですか。本文中から十字以内でぬき出して答えなさい。

Ⅱ「おびただしい」

ア、初めて目にする

イ、不可思議な

ウ、わけのわからない

エ、異常なほどに多い

問七 ——— 線③とありますが、なぜ「現地の人」はこ

のようなふるまいをしたのだと考えられますか。次から最も正しいものを選び、記号で答えなさい。

ア、飲み物にハエが入って困っている「私」を見て、

困ったときはお互いさまだから助けてあげたいと考えたから。

イ、たとえ小さなハエ一匹であっても、自分たち人間とつながりあう存在であり、粗末そまつにあつかってはいけないと考えているから。

ウ、外国から訪ねてきた「私」に縁を感じ、ハエと人間のつながりについて話すことをきっかけに親しくなりたいと考えたから。

エ、ハエはお前のじいさんだということを「私」に教えることで、ハエは家族のように大切な存在だと気づかせようとしたから。

問八 ——— 線④とありますが、「変な社会」とはどのよ

うな社会のことだと考えられますか。本文のここまでの内容をもとに、本文中の言葉を用いて四十五字以内で答えなさい。

問九 《X》《Y》《Z》に入る言葉をそれぞれ漢字

一字で答えなさい。ただし、《X》と《Z》は本文中の言葉をぬき出して、《Y》は自分でふさわしい言葉を考えて答えること。

問十 ——— 線⑤とありますが、「生物の本質を捉え」る

とは、どのような考え方をすることですか。本文中の言葉を用いて、二十五字以内で答えなさい。

三 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

（設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。）

＊字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

「わたし」の兄「モトイ」はアメリカで生まれ、十二歳までアメリカの学校に通っていた。帰国し日本の中学校に通うことになったが、日本語をほとんど話せないため、母と毎日日本語の勉強をすることになった。初めは意欲的に取り組んでいた「モトイ」だが、だんだんと勉強に身が入らなくなる。そのためかテストの結果がふるわず、「モトイ」は母にテストをかくしていたことと、できないことを正直に言わなかったことを叱<sup>しか</sup>られてしまう。

「アイ ワズント ライク デイス イン アメリカ」

（ぼくは、アメリカではこんなじゃなかった）

母は、何も言わず、モトイを見た。それから、考え込<sup>こ</sup>むようにテーブルに目を落として、黙<sup>だま</sup>っている。モトイ

は、立ったまま、くやしそうな顔で下を向き、涙<sup>なみだ</sup>をぼろぼろ落としている。それをふこうともせず、両手をぎゅつとにぎったまま……。

わたしには、モトイが言いたいことがわかるような気がした。モトイは、日本にきてから、「できない」ことが

「できる」ことよりも多い。アメリカにいる時は、得意

なものがたくさんあって、わたしがクリスマスに遊びに

行った時、いろいろ教えてくれた。コンピュータのこと

もよく知っていて、ホームページもかんたんにつくって

しまう。学校のジャズバンドでドラムにえらばれて、え

んそうした時のビデオも見せてもらった。アメリカで英

語が得意というのは、日本の学校で国語ができるのと同

じことだ。モトイは、アメリカでは、いろんなことがで

きて、もつと、Aとしていた。「頼<sup>たよ</sup>れるお兄ちゃ

ん」だった。でも、日本では、わたしが教えてあげるこ

との方が多い。ここにはモトイの好きなドラムもなく、

ドラムスティックと練習用のドラムパッドだけが、きちんとベッドのわきにそろえてある。コンピュータも、「日本語の勉強の方が先」と母にきんしされている。モトイは、B 「できないこと」ばかりになつてきてしまつた。<sup>①</sup><sub>だれ</sub> 誰かにわからないことを聞かなければならない。

25

でも、それはいやだつたのだろう。母は、数学のテストでも、文章問題がわからないなら、「先生に聞きなさい」と言うけれど、モトイは、聞きたくなかつたのだ。家で勉強でも、「わからないところは、お母さんに聞きなさい」と言うけれど、これ以上、母にもできないところを見せなくなかつたのだと思う。わたしは、なんとなくわかるんだ、そういうモトイの気持ちだ。

30

「でも、聞かないと……、わからないところは、そう言わないと、できるようにならないよ」

と母はポツリと言つた。

35

モトイは、何も言わず、黙つていた。そしてしばらく

して、少しだけうなずいた。

夏休みに入り、モトイは学校のキャンプから帰つてくるとすぐ、教会の中学生会キャンプに出かけて行つた。

中学生会には、いろんな学校の中学生が五十人位いて、日曜日に教会でいっしょに遊んだり勉強したりしている。この間は、イギリスから少年合唱団がきた時、交流会があつたりで、わたしはともうらやましかつた。モトイは、中学生会で友だちが何人もできて、とても楽しそう

45

だ。  
今回のキャンプは、長野に三泊<sup>ばく</sup>四日。テーマは「かのうせい」だそうだ。「かのうせい」ってわたしは何のことかわからないけれど、とにかくキャンプファイヤーなどもあつて、おもしろそうだ。その「かのうせい」の話し合いをするために、ひとりひとり、自分の自慢<sup>じまん</sup>できるものを何か持って行かなければならない。モトイは、ドラムスティックとドラムパッドをバッグに入れた。

50

40

四日後、わたしと母が教会にむかえに行くと、ちょうどみんな帰ってきたところで、モトイは列の中からわたしに気づいて、はずかしそうに手をあげた。日に焼けた顔だけではなく、なんだか今までのモトイとは少しちがつて見える。帰りの会が終わり、四ツ谷の駅に向かう時、「すごく楽しかった」

と何度も言い、母に、

「キャンプに行かせてくれて、ありがとう」

と、大きくにつこり笑って言った。<sup>②</sup>わたしは急に、アメ

リカにいた時のモトイの顔を思い出した。母はちよつとおどろいて、

「そうなの？ 楽しかったの？ よかったね」

とやさしそうに笑った。

電車の中でも、ずっとキャンプの話だった。みんなでご飯をつくったこと。きもだめしや花火をやったこと。

自分の「かのうせい」について話しあったこと。その後、

65

キャンプファイヤーでみんなで歌ったこと。感激して、泣いた子もいるという。モトイも、ちよつと涙が出たというので、母はじょうだんっぽく、

「そつかあ、おこられて泣くのはちよつとちがつてたかな？」

と言つて笑った。モトイは、

「日本にきて、一番楽しかった。本当に、本当にすごく楽しかった」

と何度も言う。そして、自分から、

「これからは、ちゃんと勉強する」

とまで言いだした。中学生会の友だちが勉強のできる子ばかりだからだそうだ。自分も同じようになりたいからだと言う。同じレベルになりたいと言う。それからモトイは、ちよつと

C

になった紙を広げて、わたし

と母に見せた。

「これ、ぼくがつくつたんだよ。りんたろうとぼくがつ

80

75

70

くって、歌ったんだよ」

それは、「かのうせい」を話し合った時に発表したものだった。最後の日、ひとりずつ、自分の「かのうせい」

を考えて、みんなの前でひろうする。モトイは、中三のりんたろうくんといっしょに、キャンプの歌をつくった。

りんたろうくんはギターを I ながらハーモニカを □

II。モトイはドラムを III。持って行ったドラムス

ティックとドラムパッドを使って。

『夏を感じさせる真つ赤な太陽が

僕らの気分を晴らしてくれる

自然の緑にきれいな青空

このままでいい これがいい

みんなという時 たくさんの笑顔で

つつまれている時には

本トに楽しくなる

85

緑のなかで みんなと楽しく遊ぶ

この夏キャンプ

この楽しい時間わすれないで

みんな思い出にきざもーよ』

ノートをやぶいた紙には、モトイの字で、一番の歌詞

が書かれてある。ちゃんと漢字が使われている。全部モ

トイの字だ。なんだか信じられない。モトイがこんなに

漢字が書けることを、今、初めて知った。こんなに日本

語が書けるんだ。それに、歌詞を書いたただじゃなく、

りんたろうくんと二人で曲をつけて、歌って、えんそう

したんだ。モトイ、かつこいい。

「かのうせい」って、こういうことを言うのかと、少し

わかったような気がする。自分ができること、自分が持

っている力、本当の自分を見つけることなのだろう。モ

トイは、みんなの前で自分の「かのうせい」を発表して、

90

95

100

105

110

115

それを確かめた。モトイはわかっていたんだ、自分の「かのうせい」を。

モトイが帰ってきて、母は、モトイにコンピュータのサイト作りをまかせることにした。それに、ドラムも、学校かどこかでできる方法を探してみよう、とモトイと約束した。もちろん、モトイは大よろこびだ。キャンプにも行けて、楽しい思いをして、帰ってきてこんな大きなごほうびが待っていたのだから。

ドラムとコンピュータだけではなく、モトイには空手もある。六月には黄色の帯になったし、九月には初めて大会にも出るそうだ。モトイの「かのうせい」は増えるばかりだ。

モトイの机の上には、キャンプでつくった歌詞が、いつもきちんと置いてある。母は、<sup>④</sup>そうじをしながら、時々それを開いて見ている。わたしは、今朝、その紙切れの一番下に、小さく星印「もといのソロ」と書かれてあ

るのに気づいた。

『また きつと 来年もやってね

中学生会 夏キャンプ』

来年、モトイはどうなっているだろう。ドラムをやっているかな。空手の帯は何色かな。日本語はどの位うまくなっているだろう。

<sup>⑤</sup>今、テーブルをはさんで、わたしの目の前で、モトイは漢字を練習している。母は、せんとくものを干したら、またモトイのわきに座る。<sup>すわ</sup>母も大学が夏休みなので、毎日、モトイの横に座り、いっしょにがんばっている。母は、相変わらず、ちよつとだけほめて、あとはおこっている。モトイは相変わらず、しよつちゅう泣きながら勉強している。でも、漢字は、もうすぐ四年生の下教科書が終わる。最近、母から出される漢字のテストで、三十個もあるうち、モトイがまちがうのは一つか二つしかない。

モトイ、がんばって。「かのうせい」を、みんなの前で発表できるモトイ。泣いても、がんばるモトイ。モトイはわたしの自慢の兄だ。

(h a n a e \* 「モトイと日本語」

『小学生日記』 角川文庫所収)

問二 ——— 線①とありますが、なぜ「モトイ」はわ

らないことを聞くことがいやだったのだと考えられますか。「くから。」に続くように本文から十六字でぬき出しなさい。

問三 ~~~~~ 線の三字熟語と同じ構成の語を次から一つ

選び、記号で答えなさい。

問一 

|   |
|---|
| A |
|---|

|   |
|---|
| く |
|---|

|   |
|---|
| C |
|---|

 に入る適当な語を次からそれ

ぞれずつ一つ選び、記号で答えなさい。

|        |        |        |
|--------|--------|--------|
| ア、だんだん | イ、もじもじ | ウ、よれよれ |
| エ、どうどう | オ、びりびり |        |

|       |       |
|-------|-------|
| ア、衣食住 | イ、私有地 |
| ウ、未成年 | エ、短時間 |

問四 ——— 線②とありますが、「わたし」にとつての「モ

トイ」は本来どのような人物だったのでしょうか。  
本文の言葉を使って四十字以内で説明しなさい。

問七 ——— 線④とありますが、母の行動はどのような

気持ちからのものですか。あてはまるものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

問五 I Ⅲ にはそれぞれの楽器に続く動詞が入

ります。本文にあうようにそれぞれ適当な語を答えなさい。

問六 ——— 線③とありますが、その内容を本文の言葉

をつかって四十字以内で説明しなさい。

ア、「モトイ」の成長につながるきつかけとなったこと  
とがうれしい気持ち。

イ、「モトイ」がアメリカにいた時のことを思い出せて  
楽しい気持ち。

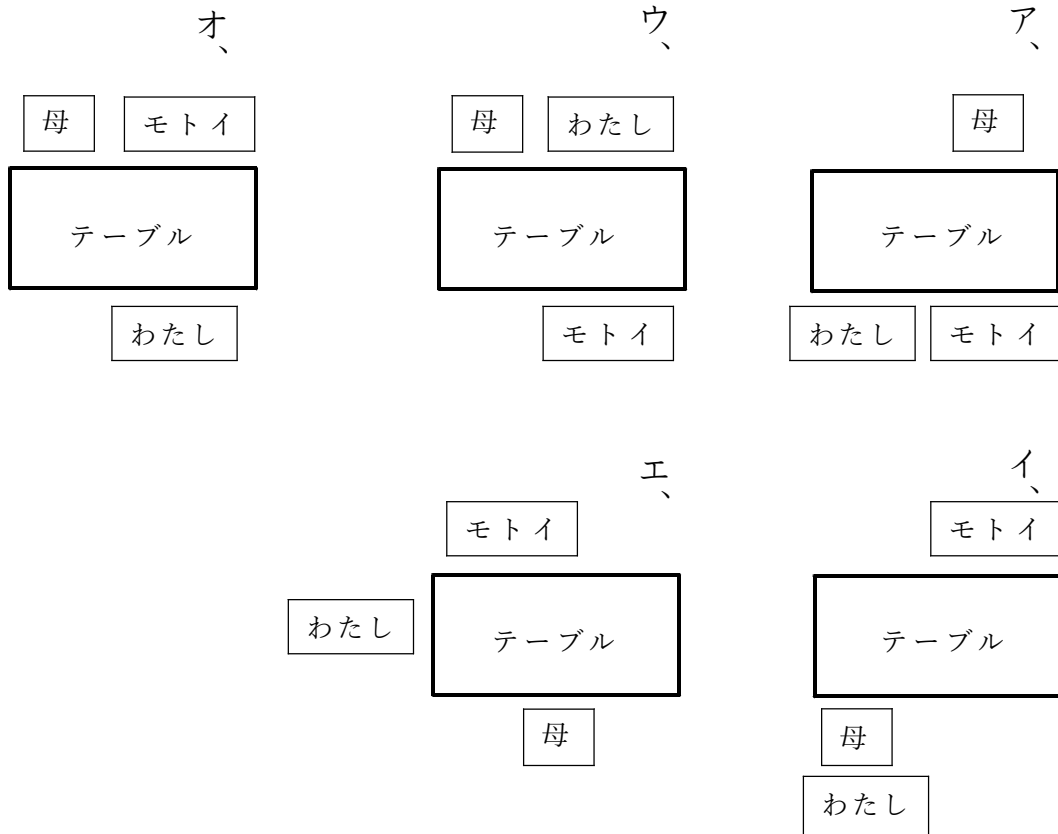
ウ、「モトイ」とけんかしてしまった時のことを思い出  
して悲しい気持ち。

エ、自分の知らない日本での思い出ができたことが  
さみしい気持ち。

オ、自分の気持ちも知らずに楽しんできたことが腹  
立たしい気持ち。

問八

—— 線⑤とありますが、三人の位置を正しく表している図を次から一つ選び、記号で答えなさい。



問九

本文中には「かのうせい」という言葉が多く使われています。「わたし」が考える「かのうせい」について説明し、それをふまえてあなたのもつ「かのうせい」について述べなさい。